

# 新任の幼稚園の先生に望むこと

谷 口 緑



今年も又、幼稚園教師養成の課程を終えて若い人たちが巣立って行きます。新しい幼児教育者としての抱負に胸ふくらませ、教育愛の実践を目ざして。そして、その反面、抱負や期待が大きければ大きいほど、未知のものへの不安も大きいことでしょう。

今まで、両親や先生に愛され育てられてきた人たちが、今度は愛し、育てる立場の人と変って、子どもたちの前にでようとしているのです。

「今年も又」とは言いましたが、新任の先生たち一人一人にとっては、生まれて始めて、それこそその人の人生にとって最初で、しかもやり直しのきかない新しく大きな経験です。

一期待も抱負も大きいほどよろしい。教育愛も、しごとへの情熱も強いほどよろしい。けれども、現実はそのまま受け入れ、若

い先生の意気こみにこたえてくれるとは限りません。厚い壁にぶつかって「どうせ理想と現実とはちがうんだわ。思う通りにならないんだから……」と、てっとり早くあきらめてしまうことはもちろん、「うまく子どもたちが私の働きかけに反応してくれなかったらどうしよう」と、不安の余り神経症になられても困ります。

何事も始めが大切、不必要な考えすぎや悩みを少しでも減らして、スムーズな第一歩をふみだせるように手助けがしたいものです。それが先に歩む者のつとめでもあるし、何よりも私たちの大切な子どもたちのしあわせにつながるのだと思います。

さて新任の先生方、あなた方が保育科に入学された時は、ただ何となくこの道を選んだのであったとしても、卒業された今は幼児教

育の知識をいっぱい吸収し、技術をみがき、人格の基礎作りになさる幼児教育者として、大きな抱負や誇りとともに、習い覚えた知識や技術を早く役立たせたくてむずむずしているでしょう。まして入学の始めから、幼児教育者の道を目ざしてまっしぐらに進んできた方は、ああもしたい、こうもしようと勇み立っていられると思います。

けれどもちょっと待って下さい。教師として実際に子どもたちの前に立つ今は、そんな知識も技術も一たん頭の奥深くしまいこみましょう。そして先ず、どうすれば子どもたちの目に信頼に足る大人としてあなたの第一印象を焼きつけることができるか、その方法を考えて下さい。

「教育」とは何より第一に人と人との関係です。教師と子どもの一対一のつながりが第一条件です。そしてそのつながりは信頼によるつながりです。

子どもたちから信頼される教師とはどんな人でしょう。保育理論の講義で習った望ましい幼児教育者の条件を一つずつ思い出して見ることもよいでしょう。愛情、健康、快活、聡明、ユーモア、公平、清潔感、勤勉、等々、そんなことならよく知っています、とおっしゃるでしょう。

そうです。けれどそれも一先ず横において考え直して見ましょう。「いったい私は、この子どもたちにとってどういう人なのか」と。あなたは彼らがその両親や家族との生活から離れて、始めて出会う、そしてしかもごく身近に生活する大人です。

「この人はどういう大人だろう。お母さんのように私をかわいがってくれるだろうか。一人一人の子どもが一人一人ちがったイメージをもって、あなたを見ています。あなたがどんな型の大人か、知ろうとして見つめています。」

犬や猫なら、クンクンと鼻をならしてあなたの身の廻りをかきまわるところでしょう。この最初の出会いの時に、あなたの魅力でもって子どもたちの信頼を勝ちとることです。何をどう教えるかは、それから後の問題です。その前に先ず「この先生は私を愛し、私の成長を助けてくれる人だ」と思わせてしまおうのです。反対に、「この先生はかしこそうだけど、私が喜ぶかどうかはそっちのけ、いろいろ教えてくれるけどちょっとも楽しくないわ。先生ってみんなこんなかしら」などと思わせてしまつては大変です。それがそのまま、「先生像」となつて、その子の一生涯つづくかも分らないのです。

「先生とは私を愛してくれる、信頼できる大人である。この人にまかせとけば大丈夫」と思わせること、そのためには何を教えるかなどということより、どうすれば楽しいあなたのクラスを作りだす

ことができるか、にあなたのエネルギーを集中して下さい。

教育愛もカリキュラムもみんな忘れて、毎晩ぐっすり眠ることに  
つとめて下さい。そして朝は早く起きて出勤し、健康で生き生きし  
た瞳と、きびきび動くからだで、幼稚園にくる子どもたちを迎えま  
しょう。それを毎朝つづけましょう。一人一人のことも「お早  
よう」と声をかけ、まっすぐその子の目を見て。

胸の名札を見なくても「○○ちゃん」と言えるように、名前と顔  
を早く覚えなさい。というのは、「私は先生に愛されている」と、  
子どもたちに分らせ、その心を早くキャッチするためです。そして  
それがあなたの魅力、子どもをひきつける力になるのです。

しばらくの間は、おそらく保育室は大変な混乱でしょう。四十人  
もの子どもが皆、はじめて会ったばかりの集団なのです。こど  
もたちどうしもお互いに相手に適応し、集団の中心である教師のあ  
なたに適応するまで、相当の時間がかかるのは当然です。それまで  
は、やたらに他の子をなぐりたがる子もいるでしょう。泣き虫も、  
だんまり一辺倒も、あなたの手を握りしめて片時も離すまいとする  
子も。緊張の余りおしっこをもらす子や、うっかりすると黙って自  
分の家に帰ってしまう子もいるかも知れません。

そんな時にカリキュラムも何もあったものではありません。ただ

危険のないように見守りましょう。中心であるあなたが混乱してし  
まっては、子どもたちの不安や混乱は増すばかりです。あなた自身  
も疲れ切ってしまう。これがこの時点では当然の姿である」  
と思つて落ちつくことです。ただ一人一人のこどもの要求を、いつ  
でも受け入れて動きだせるこころの準備態勢だけはお忘れなく。

ほんとうに人を愛するということは、愛する人に絶え間ない精神  
の活動を要求するものなのです。子どもをほんとうに愛しているな  
らば、教師はときも怠けていられません。いつも、子どもたちの  
反応から、自分の働きかけがどう受けとめられているかを読みとら  
ねばなりませんから。

あなたのクラスはいつまでもごたごたしているのに比べて、ベテ  
ラン先生のクラスは、すばらしくうまく行っているように見えて、  
自分のしていることはまちがいでないかと思つたり、又はげしい劣  
等感のとりこになるかも知れません。けれども、それは経験を積ん  
だその先生の落ちついた態度がものを言っているのです。

そのうちに次第に子どもたち一人一人とあなたとの親愛、そして  
信頼のつながりができてきます。それまでの時間は短い子も、長く  
かかる子もいるでしょう。けれどもとにかくあなたのクラスを、愛  
情と信頼によつて互いに結びあつた集団として作りあげること

力するのです。

そういう集団を、自分の家庭以外に所属する最初の集団として持つことのできる子どもはしあわせです。子どもは、彼の将来の人間関係の基本型を、その幼い時に接する人々との関係によって学んで行くのですから。あなたは、子どもにとって、そういう集団の中心、そしてはじめての「先生」という人でしたね。

「幼稚園は幼児を保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的とする」あなたもよく知っているこの法文の中の「適当な環境を与えて」ということばは意味深いものです。あなたが中心になって作り上げて行くクラスが、愛情と信頼によって楽しみに満ちた環境となりますように。信頼できる教師のもとにあるならば、子どもは苦しいことでも、楽しいものとして受け入れ、自分から進んでしようとします。無理にあなたが教えようとしないで、あなたが育てようとしている理想のこどもの姿ではないでしょうか。賢明なあなたはもうよく分かって下さったと思います。

世界の注目する平和主義者ハーバート・リード氏のことばを、その著書「平和のための教育」から引用しましょう。よく味わって頂

きたいと思います。

「子どもがどんなに、その環境、特定の学校から、特定の訓練の仕方によって影響をうけるにしても、経験が子どもの心を形成していく通路はいつでも個人個人の教師その人なのである」

ずい分長く書いてきましたが、あなたはきつともう一つの不安、若い未熟な自分を周囲の人たちが理解してくれるだろうか、という不安を抱えていると思います。たしかに、理解してくれる人ばかりではないでしょう。

けれども、世の中も人間も、絶えず進歩しているのです。あなたは若い、時代の一番先端にいます。まん中あたりにいる人と、先の方にいる人と、お互いに理解しにくい所があるのは当然です。それは進歩のしるしです。そしてあなたのが正しいことだつたら、やがて理解される時がくるはずです。それまで、しんぼう強く、子どもたちとの生活にまごころこめて努力して下さい。

愛するということは、愛する人に絶え間ない精神の活動を要求するものだということをもう一度思い出しましょう。あなたのことどもたちがきつと一番早く、あなたの努力にこたえてくれると思います。

では、先に歩む者として私もまごころこめて、あなたのことどもたちのしあわせをいのります。

(和歌山信愛女子短期大学)